

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	学校教育補助員等補充事業	会計	一般会計	事業No.	683	施策順No.	22-016
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-2-1-10-2		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	学校教育課		
施策	22 義務教育の充実			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小中学校						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		児童生徒数		9599	9464	9352	9287	
	意図	県費負担職員だけでは不足する教職員を補う						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	不足が解消された割合	100	100	100	100	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	不足する教員補助員を全校に配置し人的不足が解消されている							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<参考>細々目名:学校教育補助員等雇用事業費 1 市町村立小学校の職員の人件費は原則として国・県負担で県基準により配置 2 県基準では十分な教育効果が得られないため教育補助員を雇用し学校教育を充実		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	市費による補充職員の配置 1 講師 2 学校事務 3 外国籍児童支援員 4 給食リフト要員等 5 不登校支援員 6 給食パート 7 学校用務員 8 調理員	講師配置人数 学校事務配置人数 外国籍児童支援員配置人数 給食リフト要員等配置人数 不登校支援員配置人数 給食パート配置人数 学校用務員配置人数 調理員配置人数	15人 5人 4人 4人 1人 1人 52人 2人
23年度実施計画	市費による補充職員の配置 1 講師 2 学校事務 3 外国籍児童支援員 4 給食リフト要員等 5 学校用務員 6 調理員	講師配置人数 学校事務配置人数 外国籍児童支援員配置人数 給食リフト要員等配置人数 学校用務員配置人数 調理員配置人数	14人 5人 5人 4人 52人 3人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)緊急雇用創出事業補助金 570千円(補助率10/10)
	国庫支出金					
	県支出金			570		
	起債					
	その他					
一般財源		138,840	131,397	135,794		
計(A)		138,840	131,967	135,794		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			131,967			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	学校教育補助員を配置し学校の課題に対応することによって児童生徒の生きる力をつける。	施策の成果指標又はムツス指標	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合(小学校)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・市町村立学校の教職員人件費は原則として国・県負担であるが、県基準により配置される基準では十分な教育効果が得られないため、教育補助員を雇用することにより義務教育の充実につなげる。		学校が楽しいと感じている児童生徒の割合(中学校)
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・学校単位や市単位での適正配置人員の検討を行ってきた。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・補助員の勤務形態等の見直しによる人件費削減の検討を行った。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・十分な教育効果を得るための補助員の配置は必要である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	・特になし。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	・補助員の配置は学校規模や需要により毎年検討しており、今後も義務教育の充実(人的面)のために必要とされるものであるが、特別支援員など更に需要が見込まれる補助員と合わせて配置計画を見直す必要がある。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------